

第3回金山駅周辺まちづくり構想懇談会 議事要旨

○日 時：平成27年9月3日（木）10時00分～12時00分

○場 所：名古屋市役所西庁舎12階 第18会議室

○参加者：18名（随行者、傍聴者、事務局等除く）

はじめに

発言者	内容
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	今回の懇談会から中区役所、熱田区役所のまちづくり推進室長にオブザーバーとして参加してもらうことになった。

1. ラゾーナ川崎の事例紹介について

発言者	内容
JR 東海 企画開発部課長	ラゾーナ川崎プラザについて、これだけの売り上げがある理由は東京の特徴として、大きな商業施設が立地できるまとまった土地が少なく、数が少ないからである。名古屋は大規模なショッピングセンターがあちこちにあるので同じようにはならない。円形の広場は集客面では参考になるが、例えばコンサートをしたとして、人気アーティストを見にくる特に若い人たちは、買物をするお金を潤沢に持っているわけではなく、売り上げにつながりにくい。それに投棄されるゴミの問題や音がうるさいという問題なども出てくる。よって素案に書き込む内容については、地元の商業者や地権者が強い意気込みを持っているかどうかを踏まえて決めたほうがよい。
名古屋観光コンベンションビューロー コンベンション部長	ラゾーナ川崎周辺に、金山という市民会館やボストン美術館に相当するような集客施設はあるか。
JR 東海 企画開発部課長	北側に、ミューザ川崎という音楽ホールや子どもが喜ぶような施設で東芝の科学館がある。
松本委員	ミューザ川崎は実際に行って見てきたが、目立つ。高級な雰囲気が伝わってくる。 ラゾーナ川崎プラザは構造がわかりやすい。広場に出てくれば一望できて周囲の状況がわかる。にぎやかで広場の真ん中に休んでいる人々もいた。一方、アスナル金山は分かりにくく迷子になりそうになる。良い点ばかりではなく、真ん中にステージがあったが少し邪魔に感じた。ステージは必要に応じ臨時に設置できればよいと思う。商業

	面では食料品も衣類も充実している。移動もエレベーター、エスカレーターが備わっており、休める場所も多くて便利である。
前川委員	川崎市と名古屋市の相違点を3点整理しておきたい。川崎市は①出生率、人口も増加率が日本で一番高く、若いまちである。②総合研究所が200以上と多く、また女性の雇用者も多い。特にロレアルジャパンなど化粧品メーカーが溝の口にあるが、労働力に女性が多く、育児しやすい環境がある。③東京に近く、15分もあれば新宿や渋谷に出ることができる立地で、しかも地価が安いというメリットもあるため、若い人の転入が多い。
松本委員	女性、子どもに優しいという話だったが、人口も減っているので女性中心、という考え方は大事。また、都市に水場があれば子どもや親子連れが集まる。姫路や大阪など良い例であり、波及効果も期待できる。住宅公団は危険だからという理由で水場を作ってこなかったが、中国は水場を多用しており大変参考になる。 続いて、市民会館の位置づけについて説明をしてほしい。意外と知らないことが多い。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	劇場に関連しては、渋谷ヒカリエなど、最近の新しい事例も出てきているので、次回、事例紹介交え比較説明したい。

2. 金山周辺まちづくり構想（素案）について

発言者	内容
松本委員	今回新しく加わった内容について触れていきたい。2 金山の歴史の部分で、名城線の環状線化は重要な部分である。また本町通が続いているという点も他で検討が進められているので確認しておいてほしい。 4 時代の潮流では、人口は1990 年頃に一時期200 万人くらいに減少し、後に都市回帰で回復したということがあったが、今後は子どもが少なく、自然減によるものになってきている。人口をもっと増やしていかなければいけない。 5 計画の位置づけでは、金山地域は避難所が近くに確保されているという一方で、実は人口あたりの面積が少ないことが判明した。なにしろ緑が少ないので緑と水を増やして、そこに避難所をつくるとよい。 7 課題では、広域的な回遊性について考慮している点が大変良いと思う。鉄道が金山を中心に放射線状にある。セントレアから名鉄で金山にスムーズに出られるが、国際会議場に行くには地下鉄に乗らなけ

	ればならない。世界に誇る白鳥公園、熱田神宮があるため、うまく回遊できるとよい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	P.17 の都市再生緊急整備地域について、5 各種計画等による位置づけの中で扱われている内容にも関わらず、金山は実際は現在整備地域として位置づけられていない為、どこかでそのことを説明したい。どう扱うかのアドバイスがほしい。
松本委員	今後位置づけてもらえるよう目指すスタンスがよいと思う。
住宅都市局 都市計画課長	P.17 の図について少し訂正したい。赤い網掛け部分について栄、名駅の箇所はこの 2 つが一体となったエリアである。 最終的に地域を指定するのは国だが、指定するにあたり国から市町村に問い合わせがあり、それに対し、地元がやる気があることを PR するような回答をしないとイケない。
松本委員	指定してほしい地域ということで色を付けるのはどうだろう。金山は世界の窓口なのに、国際都市を目指す名古屋市で指定されていないのはおかしい。乗降者数が名古屋で 2 番目という場所でもある。
住宅都市局 都市計画課長	指定をした場合、国から具体的なプロジェクトのスケジュールや効果について説明などが求められる。指定される前段で、土台としての説明の準備をしておかなければいけない。
松本委員	我々の方で頑張れば指定に近づくかもしれない。準備をしっかりとしておくためにもよい意見がほしい。
JR 東海 企画開発部課長	専門家に教えてもらいたいのが、都市再生緊急整備地域とはどのような制度なのか。容積率が緩和される措置があったりするものなのか。
住宅都市局 都市計画課長	国が民間に対して、大規模な投資をしてもらうための制度である。例えば素晴らしい広場作るとか、パブリックなスペースを設けるなど、都市再生に資する事業であると認められた場合、容積率緩和など柔軟な対応を、各プロジェクト単位で受けることができる。ミッドランドスクエアやスパイラルタワーなどが該当する。一定の広さを持っていることなど要件として、容積率だけでなく税制や金融の支援を受けられるメリットもある。 特定都市再生緊急整備地域については、人口や GDP が減る中でインバウンドの重要性が高い、という考えから、国際競争力の向上に資する基盤を作る、といった事業に支援するというもの。
松本委員	先ほど容積率が充足していないという話も出たが、街区の中で高層なビルを建てる際、例えば現状の容積率 800% から 1000% にしたいと考えたとき当てはまる話か。
住宅都市局 都市計画課長	名駅が一番高く 1000% で、それ以外は 600~800% あたり。金山は副都心という位置づけで高めの設定となっている。都市再生緊急整

	備地域に指定されれば、支援がより進んだりするのではないか。ただし P.31 の記述では、容積率が上がれば全てうまくいくという内容に読み取れるが、決してそれだけではないので工夫した方がよいと思う。
鈴木委員	P.23 の回遊性についてコンセプト自体は良いと思う。しかし文面について、歩行者動線のネットワークという内容、図の青い線がピンとこない。どちらかというとも公共交通を強化しつつ、各施設との連携を深めていくという内容のほうがよい。 次に、前回の金山北地区整備計画の中で、例えば「堀川などを結ぶ回廊づくり」など今回の構想で提案されている取り組みと重なる事業がある。P.20 に整備計画の評価が記載されているが、もう少し具体的に取り組みの進捗や成果などの詳細が示されるとよい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	P.23 の回遊性については、図がエリア間の話だけとなってしまうが、金山のまちの中の回遊性という考えもある。 また、駅直近の歩道についてはよく整備されている認識だが、北側の歩道は不十分なところがあり、そういった特定の歩道については建て替えの時のセットバック措置などで充実させていきたい。その2つ種類があることを明確化して記載すべきだった。
鈴木委員	P.23 の前半部分は今説明してもらった内容が書いてあると思うが、後半の内容がわかりにくい。
松本委員	公共交通と歩行者ネットワークを連携させる、というような内容で書くとよいかもしれない。
松本委員	バスや名鉄、JR と施設までの歩行者ネットワークを明らかにしていく。例えば国際会議場に行くときなどいろんなパターンが考えられる。
鈴木委員	自転車があればもっとつながると思う。市の施策と合致すればそういった内容も加えてよいと思う。
前川委員	P.30 について、商業的な賑わいがメインになっているが、人口も減っているため商業施設への期待はあまり過大に書かない方がよい。業務関連についての記載があまりないが、安倍首相の政策にも女性の活躍が掲げられているように女性の労働力を活かす点や、オフィスを設計する際に女性や育児のための機能の導入を考えてほしい。今は市民会館に行きたくても子どもを預ける場所もない状態である。海外の労働力を入れる前に女性を活用することを考えるべき。女性は人口の半分を占めるため、活用は重要である。金山では、名駅と違い、長時間労働ではない働き方や育児をしながら働ける環境があるとありがたい。海外の例でフランス、スウェーデンは女性の労働支援が充実しており、企業も保育施設などを持っている。その結果 2.0 という高い

	出生率につながっている。一言も女性の労働力という文言が無いので入れてほしい。商業面でも女性のニーズを取り入れることが必要である。ユニ・チャームという企業は中国で躍進している。 また、シニア人口も増えるし、ハンディキャップのある人への対応も必要である。
松本委員	P.17 では、都市再生緊急整備地域について説明加える。P.20 では、評価以外に進捗や成果を表形式で記載してほしい。 P.30、賑わいのつくり方について、女性や子どもが集まる水場を憩いの場として設けることが重要である。ほかに、先日東京駅で見たが、昼時 1 時頃、皇居へ続く道の両脇で多くの女性が弁当を食べているのを見た。女性のための都市のあり方、女性の生活にあった空間を提供しなくてはいけない。例えば、トイレ、化粧室、更衣室、外でランチを食べる場所、子どもと遊べる場所、子育てを支援する空間などである。これはユニバーサルデザインにもつながる。まちには女性と子どもが必要である。平日昼間にまちを賑やかにするのは女性である。喫茶店、食堂など女性で賑わっていれば男性も参加したくなる。女性も男性も都市の中の空間で休めるような場所づくりが必要。高齢者や子どもにも参加してもらい、「賑わいの継承」をぜひ進めてほしい。
前川委員	企業にとっても、女性の労働環境の整備は必要である。女性の企業参加に関する視点を、一言入れてほしい。
松本委員	もう少し進んだ段階になるが、基本的方針の中に女性、子ども、高齢者など弱者への対応は必要である。また、P.30 には「多種多様」、P.21 には、「差別化」とあるが、多種多様と差別化をどうやって両立させるかをしっかり議論しなければいけない。多種多様という差別化なのかもしれないが、焦点をはっきりさせる必要がある。 P.38 に関して、金山は分かりづらく、知らない人も分かるような空間にしていかないと人が集まってこない。ラゾーナ川崎プラザは広場に立てば全て周りが分かる。アスナルも素晴らしい施設だが、分かりづらいところがある。例えば、お店の空き状況は実際にお店の近くまで行かないと分からない。分かりやすさは防災にもつながることである。分かりにくいところには人は逃げていかない。日常的に使っていて分かりやすいところ、明るいところ、広いところ、開かれているところへ逃げるものである。開放性も持たせることは大切である。

交通局 電車施設課長	施設の誘導を考える中で、施設の再開発によって人の増加や流れがどのようになるかが分かると、自身の業務に当てはめて考えやすい。例えば、金山北改札口から新しい市民会館へはこんな風な人の流れができる、など。需要予測のような具体的な数値やデータを盛り込むことはできないか。難しいと思うが何かしら示してもらいたい。
松本委員	目標イメージは数値的なイメージもあるし、他には例えば、人が市民会館へ行くとき「〇〇な経験をすることができる」というようなイメージを示す方法もある。市民会館への途中には〇〇があって、市民会館へ到達し、出た後は〇〇があって、というような内容である。
交通局 電車施設課長	人の流れに対応して、歩道がどれだけ必要になり、そのために建物を何mセットバックすればよいなどと考えられる。
松本委員	地下だけではなく、地上を歩くと非常にまちのイメージが分かる。行き帰りが違ったイメージになるとよい。女性、子ども、老人、若者だったらどうと、それぞれの想定イメージを入れてはどうか。
交通局 電車施設課長	ラゾーナ川崎の北口自由通路は、予想以上に利用者数が多く、バイパス的につくったのかと思うが、もし予測できるのであれば最初から盛り込めると思う。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	具体的なデータを用意するのは難しい。現在パーソントリップ調査の平成 13、23 年のデータを精査中である。アスナルはその間にできたため、変化が分かるかもしれない。次回紹介したい。
松本委員	想定イメージとして、例えば、平日普通のサラリーマンが金山に来て、どこの会社に行って、どこにお昼行って、帰りは何をして、という一般的なものから、経営者や買い物に来た人がそれぞれどんな生活をしているか、また、金山はこういった遊びができるといったような「金山生活イメージ」を載せることは可能か。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	まちを 1 日過ごす場合のシナリオのようなものかと思う。勝手な想像になってしまうかもしれないが、構想に厚みを持たせるものになると思うので、楽しみながら一度考えてみたい。
松本委員	どんなものでも目標イメージを持たせなければいけない。ビルができるなど物的なものではなく、どんな生活ができるのかという生活イメージも重要である。
市民経済局 文化振興室長	今回、目玉となっている市民会館の建替え先が、古沢公園含めた北側の奥まった敷地になっているが、その広さで名古屋市メインホールとして、見合うものができるのか心配である。できれば名古屋市の土地ではないが、東側のブロックも含めて考えてもらえるの

	がよい。現在の古沢公園の敷地では市民会館を置く場所としてはスペース的に問題があると思う。それができるということが示されないと市民会館を北に置くというゾーニング自体が考えられなくなるのではないか。 また、P.37 の音楽プラザの内容については、現在行われていることが記載されているだけなので、あえてここで記載しなくてもよいのではないか。例えば、駅前の公開空地などを使って音楽やイベントを楽しんでもらえるような場所にするなど、文化芸術の面で別の視点を書いた方がよいのではないか。
松本委員	市民会館は今のままでは面積が足りないのか。隣の土地を買う方法もあるのか。川崎のように駅の直近に集約する手もある。その場合は、後跡の扱いが課題になる。今この場で決定することは難しいが、まずは地域として必要な機能を確認することから検討できればよいかと思う。
前川委員	渋谷のヒカリエは上層階にシアターオーブという劇場があり、その下にオフィスや商業施設などで回遊できる仕組みだが、同じように高層のビルの上層に劇場、オフィス、学校などをつけて、その下に商業施設を入れるというようにするのはどうだろうか。人口減少の時代なので、劇場に行った人が帰りに下層の商業施設に立ち寄って飲食もできるという形にし、あまり商業を中心に考えないようにすべきである。小さな公園の中に建てるのではなく、大きな面積の大きいものを考えてもらえたらという夢を持っている。
松本委員	壊してから造るとか、北側につくるなど建て替えの順番も検討する必要がある。北側の敷地が小さいのであれば、アスナルの場所に造る以外にないのかもしれない。今の時代、37 階のビルが笹島でもできるのだから、高層なビルを建ててもよい。三菱地所が常盤橋に 390 メートルの日本一高いビルを建てる計画をしている。現在を見ないで未来を考えるべきである。10 年後にはもっと状況が変わっている。少なくとも東京のレベルで考えないと、新しくできたものが大したものにならない。10 年、20 年先を見据え、ダイナミックに考えるべきである。そこで勘違いしてはいけないのは、人口が減ってしまう点である。人口は減るが、外国人は増える。そうすると客の質が違って来るかもしれない。また、人口は減っていくので、子育てができるような環境を都市の中につくらなければいけない。
交通局 企画財務部主幹	女性の視点を言えば、女性に優しい=安心感だと思う。薄暗いのはだめであり、開放性などが重要になる。細かいところではトイレ

	の数や快適さ、明るさ、使い勝手など、子どものための空間も必要である。
熱田区役所 まちづくり推進室長	熱田区の関係者であるため、気になるのは金山の南側である。 P.23にあるように、熱田への回遊性は重視して考えてほしい。熱田区は地下鉄やJRの駅はたくさんあるが、熱田神宮は伝馬町駅、国際会議場は日比野駅が最寄りとなっており、両方を行き来する時はわざわざ金山へ戻らなければいけない。交通の便が良い場所のはずだが、不便だという話を聞く。熱田区は、自転車で廻るのがふさわしいので、自転車の拠点があるとよいと思う。
松本委員	自転車は利用者のマナーの悪さが問題だと感じている。植え込みをわざわざ自転車置き場にされていたりする。自転車はルールを守って使えばとても良い乗り物ではある。ほかに、バスが使えるようであればわかりやすくて良いと思う。
緑政土木局 企画経理課主幹	自転車については、これまで自転車は歩道に上げて安全を確保しようとしていたが、法改正で自転車を車道に走らせることとなり、逆走も禁止になった。そのため対応が大変である。自転車利用者にもなかなか浸透しない。ママチャリやお年寄り、子どもといった弱者や、通勤、スポーツなど様々な用途がある中で分けての管理が大変である。駐輪対策については、アスナルには有料駐輪場を設置している。建て替えの際は放置禁止のエリアの拡大とか、撤去費用の問題、そして収容施設の準備などが必要である。先ほどの容積率緩和について、民間で駐輪場を設置すると公共貢献の対象となる。名駅では実際に活用している例もある。そのあたりを総合的に勘案して配置計画をたてるべきである。 文化芸術拠点を古沢公園に移転する点については、名古屋市内での全体の緑地面積を確保という大きな観点から考えれば、つぶして終わりというわけにはいかない。代替えの緑地、オープンスペースの確保が必要である。これについては、事前の調整をお願いしたい。ゾーニングイメージや将来計画の絵など具体性ある部分については必ず事前協議をお願いしたい。 防災のオープンスペースについて気になる点がある。広域避難場所として面積と位置指定に関する言葉の定義付けに厳密さが欠けているところがある。現状で足りていない、現状で指定されている部分が実際オープンスペースになっていないと言いたいのか、指定されている面積がこれから増やしたいと思っている都市機能に対して不足しているのか、意図が伝わりにくいので、きちんと検証して書き分けてもらいたい。

	広域避難場所の充実やエリア防災計画の検討は、担当部局がこの懇談会の席についていない。また女性や子育ての視点、人権、バリアフリーについて協議するには健康福祉局が福祉のまちづくり、福祉都市環境整備指針の見直しをしている。障がいを理由とする差別解消の法律施行に向けて、今年度いっぱいには決定しなければいけないはずなので、これだけユニバーサルデザインの話が出ている以上は、事務局の方で事前調整をするか、懇談会に出てきて意見交換をすべきではないか。
松本委員	ぜひ前向きに新しいオブザーバーを入れてもらおうと良い。
名古屋まちづくり公社経営企画室長	回遊性について図式化してもらいたい。地元の方々と話していると、北側にある大須などとの連携の要望がある。P.33 に大須や栄南など北側についての文言も加えてほしい。
松本委員	防災計画あたりでも南の方との連携をいれてもらおうといいのかと思う。
名古屋観光コンベンションビューロー コンベンション部長	P.45「観光案内所が・・・来街者からは分かりにくいものとなっています」という記述があるが、サインか、案内所の位置か、何が分かりにくいのか詳細を記載してほしい。 最後の段落部分でソフト面、ハード面両方に触れている箇所について、ハード面・ソフト面で整理して記載していただけると良い。 Wi-Fi は「NAGOYA Free Wi-Fi」がメーグル車内のほか金山案内所でもすでに運用中で順次エリア拡大の予定である。 また、金山駅エリアでは、名古屋国際会議場の母都市としての機能強化が必要で、特に国際会議で来名するVIP が宿泊できるマンダリンやリッツなどの国際的なチェーンの高級ホテルがない。金山駅エリアに高層ビルができるのであればその中にそうしたホテルに入ってもらえるような計画にぜひともして欲しい。全体としても宿泊施設が名古屋には不足している。
松本委員	広告については都市景観の担当でも検討している。その点も確認すると良い。
中区役所 まちづくり推進室長	P.23 の回遊性について、中区は栄地区とか大須とかいろいろなまちづくりがある地区なので、図面に落とすかどうかは別として、中区の中で話をいれてもらおうと良い。 P.40 のエリア防災計画の部分で、避難について扱っているのはありがたい。平成 25 年 9 月 4 日豪雨のとき、実際に区役所の対策本部にいた。その時は豪雨が短い時間で済んだが、もし長時間続けばもっと大変な状況になる。各鉄道事業者には訓練などで利用させてもらっているが、ぜひ協力をお願いしたい。

交通局 自動車施設課長	駅利用者が 43 万人と非常に多いが、今後インバウンドのためにもっと増やす中で、単に JR や名鉄から地下鉄へ乗り換えるだけの状況にならないように、まちに引き出すことを考えなくてはいけない。さらに、外からの人だけではなく、むしろ名古屋市内に在住の方、例えば金山だとバスで来る人が 2 万人弱いる。バス利用者は今扱っているエリアを必ず通る人なので、その人たちも大事にして、受け入れてもらえる計画づくりが必要だと思う。
名古屋鉄道株式会社 事業企画部 企画担当課長	P.42、①と②の順番が変わってよかった。
松本委員	次回は市民会館の話をしたいと思う。